

# 令和5年度河川水質検査結果

調査日： 令和5年9月26日

天 候： 曇り

調査項目	単位	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	生活環境基準 (A類型)
		大洞川	川浦川 (栃洞)	川浦川 (とみぱーく)	箆屋谷川	津保川 (下滝田)	詰田川	津保川 (加治田)	
気温	°C	26	28	26	25	25	26	27	－
水温	°C	23.5	22.8	23.6	23.0	21.3	24.1	21.6	－
水素イオン濃度(pH)	－	7.0	8.8	8.1	7.2	7.4	7.9	7.5	6.5~8.5
生物学的酸素要求量(BOD)	mg/L	0.9	1.0	0.7	1.0	0.5未満	0.9	0.5未満	2.0以下
化学的酸素要求量(COD)	mg/L	1.2	2.7	1.7	3.4	1.0	2.1	1.0	6.0以下(農業用水基準)
浮遊物質(SS)	mg/L	1未満	1	1	1	1未満	3	1	25以下
大腸菌数	CFU/100mL	180	510	130	28	96	330	49	－
全窒素(T-N)	mg/L	0.50	0.38	0.30	0.39	0.42	0.57	0.30	1.00以下(農業用水基準)
全リン(T-P)	mg/L	0.038	0.064	0.042	0.036	0.028	0.054	0.022	－
陰イオン界面活性剤	mg/L	0.02未満	0.02未満	0.02未満	0.02	0.02未満	0.02未満	0.02未満	－

## 【基準値超過の原因等】

### ◎水素イオン濃度(pH)

pH は、地点②川浦川(栃洞)の一点が基準値を超えていました。pHが高いのは、雨量が少ないことと、植物プランクトンの活動が活発で炭酸同化作用により、水中の炭酸が減少したことが重なり、pHが上昇したものと考えられます。この現象は、雨量の少ない時期によく発生する自然的な要因によるものです。地点②川浦川(栃洞)の pH は基準を超過していましたが、下流の地点③川浦川(とみぱーく)の pH は基準値を満たす値まで減少しており、流入する津保川への影響は少ないと考えられます。

●分析機関 株式会社 総合保健センター